

1 アンケート結果

第60回新潟県小中学校教頭会研究大会・第15回ブロック別研究大会アンケート結果							
		1 大会期日・大会日程について ※11月1日を起点日として、その日に最も近い金曜日を大会期日として開催。	2 開・閉会式について ※簡略化して実施	3 実施方法について ※オンラインでの開催	4 各実践について ※研究課題との正対性	5 運営について ※参加型分科会(少人数によるグループ協議)	6 大会要項について ※ホームページからの各自ダウンロード
全体	良い	415 77%	490 91%	469 87%	418 77%	464 86%	468 87%
全体	概ね良い	116 21%	48 9%	66 12%	119 22%	71 13%	69 13%
全体	改善が必要	9 2%	2 0%	5 1%	3 1%	5 1%	3 1%

2 研究大会を振り返って

(1) 研究内容について

第60回研究大会(第15回ブロック別研究大会)では、全公教*²の第13期研究の2年目として、統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」(キーワード 自立・協働・創造)のもと、新潟県の今日的な課題を踏まえたサブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」を設定して行った。「研究の継続性による成果と課題の焦点化」「研究の協働性の充実」「教頭の関与性の明確化」を明らかにした教育実践を持ち寄り、実践の有効性や妥当性などを検討することを目指した。

各分科会では、ブロックごとの検討を経た充実した発表であったことから、一人一人が自校の現状と実践を比較しながら意見交換を行い、活発な協議を行うことができた。

(2) 分科会提案について

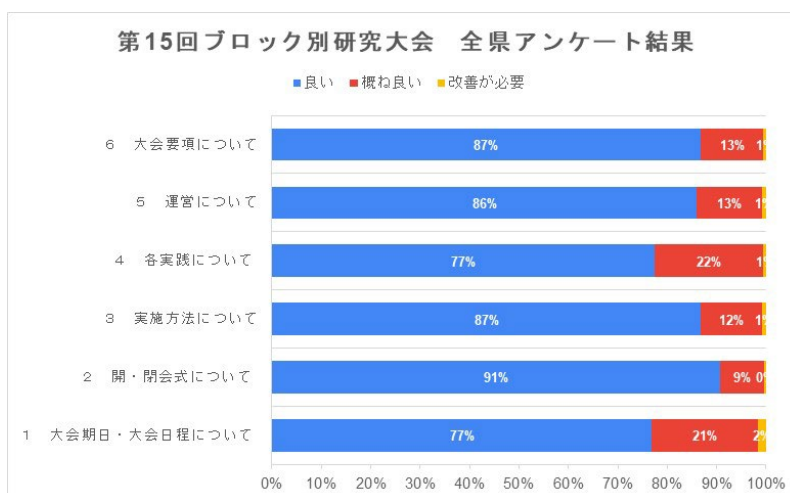
提案発表を軸としたグループ協議では、各ブロックにおいて発表者及び分科会運営者の尽力と参加者の主体的な参加によって、サブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」に示した学校像・子ども像の具現化に向けた追究ができた。また、分科会報告や事後アンケートの記述からも、各分科会で、それぞれの研究テーマに正対した協議が行われ、研究の成果と課題を共有することができたことがうかがえた。

今後も、提案者には、①「研究テーマは何か」②「研究テーマに正対する結論は何か」③「結論を支える具体的な事実は何か」という論述の整合性を一段と高める配慮をお願いしていく。

(3) 研究の基本方針(「研究の継続性」「研究の協働性」「教頭としての関与性」)について

県教頭会では、全公教の研究の基本方針を踏まえ、3つの研究の基本方針「客観的で継続性のある研究」「組織的で協働性のある研究」「教頭としての関与性を明確にした研究」を示している。

各ブロックで定例の教頭会の機会を活用して研究に取り組んだり、郡市教頭会の研究部(研修部)がサポートしたりというように、それぞれの組織を生かした研究が行われている。その結果、今年度の研究大会でも「教頭会として」の提案発表がいくつか行われ、提案地区の教頭会の取組が明確に示



されたものとなっていたと言える。

分科会の成果を見ていくと、社会に開かれた教育課程、不登校対応、保護者・地域との連携、安全管理、教職員の専門性の向上等の現在の学校に求められる多様なテーマにおいて、教育活動推進における教頭に求められる資質・能力を追究した研究になっていることが分かる。

来年度は、全公教の第13期統一研究主題を受けた研究の第3年次を迎える。これまで培ってきた研究の成果を生かし、第61回新潟県小中学校教頭会研究大会につなげていく。

(4) 運営面について

① 大会期日について

アンケート結果を見ると「大会期日・日程」については、「よい」が77%だった。県教頭会*1の研究大会期日は、原則として「11月1日に最も近い金曜日」であることになっているが、昨年度の研究大会を10月28日の金曜日に開催にしたところ、翌日の土曜日に文化祭等の行事が予定されている学校があり開催日の変更を希望する意見が寄せられた。(昨年度同項目の「よい」の回答は66%)今年度は、昨年度の反省を生かして10月30日の水曜日開催にしたことで、多くの会員が参加しやすくなり肯定的評価が向上したと考えられる。来年度は、全県での研究大会となるので、開催期日を各郡市教頭会にできる限り早く伝え、会員一人一人に周知徹底を図り多くの会員が参加できる研究大会にしていく必要がある。

② 実施方法について(オンラインによる開催)

今年度の研究大会も、全ブロックがオンライン開催となった。各ブロックにおいて、地域性や組織規模等を考慮しつつ、これまでのノウハウを生かしてオンラインを活用して開催することができた。オンライン開催については、研究大会後のアンケートでも「よい」「概ねよい」の肯定的評価が99%だった。参加者からは、移動時間の削減、学校を空ける時間の短縮、出張旅費の削減等の面からも今後も継続してほしいという意見をいただいた。来年度は全県研究大会になるので、反省点を改善しながらスムーズに運営できるようにしていく。

③ 少人数での協議

各分科会のグループ協議では、ブレイクアウトルーム等を活用して少人数によるグループ協議が行われた。少人数での意見交換ということで、参加者が自校の現状や実践と比較しながら意見交換を行うことができた。事後のアンケートでも、「小グループでの話し合いも充実していてよかった」「グループ協議で他市町村の状況を知ることができ参考になった」等、肯定的な意見が多かった。

今後もグループ編成や分科会の時間配当等に十分な配慮をした上で、グループ協議を核にした分科会運営を継続していきたい。

④ 大会要項について(ホームページからの各自ダウンロード)

大会要項については、研究大会後のアンケートでも「よい」「概ねよい」の肯定的評価が99%だった。要項については、令和3年度から各自で教頭会のホームページから事前にダウンロードするという形で参加者の手元に届くようにしている。そのため、参加者は大会要項を精読して、分科会の提案骨子や協議の視点を理解し、各自が問題意識をもって会に臨むことができたと考える。しかし、一部で要項の事前ダウンロードがわからなかったという声も聞かれたので、研究大会の開催前に会員に案内をし、改めて周知徹底していく必要がある。

3 今後の研究大会に向けて

来年度は、全国公立学校教頭会第13期統一研究主題「未来を切り拓く力を育む 魅力ある学校づくり」(キーワード 自立・協働・創造)のもと、新潟県の今日的な課題を踏まえたサブテーマ「夢や希望に向かい、他者とともに自ら未来を拓く子どもを育む学校づくり」を追究する第13期の3年次を迎え、全県での研究大会となる。

研究の3つの柱「研究の継続性」「組織研究としての協働性」「学校運営における教頭の関与性」をさらに充実させ、一人一人が大会に主体的に参加し、各学校及び各教頭会でなされた取組について協議し、互いの実践から学び、成果と課題を共有し、教頭としての資質向上を目指していく。そのためにも、今年度の研究の成果と課題を踏まえた上で、より充実した研修を推進していく。

*1 新潟県小中学校教頭会の略称 *2 全国公立学校教頭会の略称